



(2022年8月6日現地にて撮影)

ファイナル「ミズガキに集う会」報告

松村 禎夫

戦後まもない1946年に発会した山梨YMCAは、メイン事業として成人講座に力を注いでいました。1948年夏にはその講師として賀川豊彦を招き、その際に甲府一高（旧甲府中学）でも講演会を開催しました。そのことに刺激され、YMCAの若い会員サポートもあって、その年の秋、甲府一高のクラブとしてハイY（高校YMCA）が設立され、それに引き続き甲府二高、甲府工高、韮崎高を始め次々にハイYが創立されました。これらのハイY活動を活性化する事業の一つとして、1950年に夏のワークキャンプが現長坂町にあった青雲開拓団で三週間行われました。青雲開拓団でのワークキャンプは4年間で終了し、1954年からは「みずがき山少年の町天使園」でのワークキャンプとなって、このミズガキでのキャンプは以後1964年まで継続されました。このプログラムは、ハイY王国と呼ばれるほど山梨での高校YMCA活動が盛んになった大きな理由と考えられます。これらのワークキャンプを経験した「ハイY卒業生の会」が中心になって、約30年前に『ワークキャンプに出会ってから』と『お父さん、お母さんが高校生だった時』という2冊の本が作られました。「ミズガキに集う会」は、その編集に関わった大澤英二前理事長を始めとするハイY卒業生が2002年頃この天使園の跡地近くに造られた「みずがき山自然公園」に年一回集まろうと呼び掛けて始まった会です。

そのファイナルと称して開催した今年の「ミズガキに集う会」には、総勢29名が現地のミズガキ山自然公園と二次会会場のYMCA新会館に集いました。二次会のみには車椅子で参加された鈴木健司元理事長は高齢（86歳）で、現在事務所の引継ぎをされながら一人暮らしで、YMCAのデイサービスに通っておられ、教会とYMCAおよびワイズメンズクラブが支えになっていると語られていました。また、ゲストとして参加された露木前総主事と中田現総主事からは、山梨YMCAはこの十数年デイサービス事業や学童保育事業に取り組み、For allの精神で進めているとの報告があり、これからはかつてのハイYのワークキャンプの経験を活かして、キャンプ事業にもさらに力を注いでいきたいという決意が語られました。

2023年6月、10周年を迎えるはずの高齢者サービス「ぶどうの木」は、自分らしく最後の最後まで日常生活に生き、我が家で息を引くことを希望する利用者の日々を支える高齢者事業所として、人に寄り添い歩んできました。しかし、お借りしていたビルに併設する大型百貨店閉店、跡地周辺の再開発が決定し、建物自体の取り壊しを余儀なくされ、2023年1月をもち休業する事になりました。長きにわたり利用されております皆様、ご家族様にはご迷惑をおかけすることになり心を痛めております。「ぶどうの木」の想いは本館「オリーブの木」が引き継ぎ、施設増築、更に職員体制に厚みを持たせ、ご利用者様のご希望に寄り添う形で多くの方が移行でいるよう努力してまいります。

これまで、山梨YMCAはLOVE構想を掲げ、0才から生涯にわたる地域共生社会の実現のために事業を行ってまいりました。今後のYMCAも人々に寄り添い、地域に寄り添い、社会と共に歩むことは変わることはありません。これまで以上に、皆様からのご理解ご協力を頂戴し進んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

各事業所の夏

野の花保育園・ぽかぽか教室（本館）



今年も暑かった夏！野の花保育園・ぽかぽか教室では、みんなで暑さを楽しさに変えて遊びました。水・泥遊び、氷や寒天を使った感触遊び。保育園ではちょっとり大きなプールに入り、ぽかぽかでは中央市にある井戸に出掛け、昨年度よりダイナミックに水遊びを楽しむことができました。「おもしろそう」「さわってみようかな」「気持ちいいね」と心と身体を開放する心地よさ、友達や保育者と楽しさを共感する楽しさ、夢中になって遊ぶ、そんな遊びを通してまたひとつ成長しました。さあ！実りの秋！この夏の経験を栄養に更なる子どもたちの成長が楽しみです。（中里 直子）



プライムタイム・きらきら教室・にじの家・キッズパラダイス（本館）

今年度は、昨年実施できなかった外に出かけるプログラムを多く計画し、夏休みを迎えようと準備をしていたところにコロナウイルス感染者が莫大に増え、各事業所急遽計画を変更しました。

今の環境で出来ることを考え、「考古博物館」に行けなかった代替プログラムとして「YMCA考古博物館」を開催し、館内で化石発掘体験や土器の修復に挑戦したり、毎年恒例の「夏祭り」も子どもたちが中心となって運営しました。

感染対策に気を付けながらの運営でしたが、子どもたちからは「楽しかった！」「来年もまたやりたい」との声があがりました。また、夏休みだけ利用した子どもたちが「また来年の夏にYMCAで会おうね」と約束をしていました。新しい出会いや様々な体験をすることができたのではないかと思います。

夏休みに体験したことが今後の生活に生きるように、今後も様々な体験活動を行っていききたいと思います。

（仙洞田 結）



プライムタイム・きらきら教室・きらきらプラス（南西教室）

南西教室では夏休みに学童保育と放課後等デイサービスが合同でプログラムを取り組みました。

工作では放課後等デイサービスを利用する中高生が中心となり、夏休み前から準備をしてくれました。プログラム当日も中高生が中心となり前に出て説明をしたり小学生に指導してくれました。

今年初めて長期プログラムとして（株）山梨トヨペット協力のもと「エネルギー教室」を開催しました。環境問題について勉強したり、水素で動く車を見学しました。子どもたちからも「今後どういう世界になっていくのか楽しみ」という声が聞かれました。（久保川 美江）



りんごの木

りんごの木では、初の試みとして、夏祭りを開催しました。子ども達は思い思いの絵を描き、シールを貼り催しのチケットを作ったり、ご案内ボードを作成しました。当日が楽しみで仕方ない子ども達「今日お祭り？」と職員に何度も聞く姿がありました。夏休みの造形活動で作った風鈴や提灯を飾り、室内に彩りを添え、いよいよお祭りがスタート！おもちゃすくい、お菓子釣り、ミニバザーなどの催しを子ども達は（保護者の皆様も！）キラキラした表情で楽しんでいました。

新型コロナウイルス対策として参加者をグループ分けし、時間入れ替え制という形での開催となりましたが、沢山の方にご参加いただきました。皆んなの力で作り上げた最高の夏祭り！この経験が子ども達の心の栄養となり、成長に繋がることと思います。（森 香里）



「やっと会えたね。」 チアダンス

これまでリモートレッスンで繋がっていた遠い南の鹿児島の子もたちと山梨の子もたちが待ちに待ったこの時、東山荘でリアル対面を果たすことができました。

山梨の子もたちは歓迎を受け、ワクワクドキドキの不安の顔から笑顔に変わり、合同合宿がスタートしました。

対面のないリモートレッスンでどれだけ得られたものがあるのかわからない中、これまでずっと対面でレッスンを受けて来たのかと錯覚するぐらいの自信と成長を目の前にした、私たち大人は、初日から大粒の涙をこぼし「真の感動」を与えられたのでした。また、夜は、キャンプファイヤーが行われ、こどもひとりひとりの言葉の強さを感じ、未来に向かうキラキラした目から鹿児島と共に歩む新たな試みにこれから続く道を見ることができました。（中田 純子）



ぶどうの木・オリーブの木

ぶどうの木は、山梨YMCAの高齢者事業の一端を担い今年で9年5カ月を過ぎようとしています。ご利用の皆さんの温かい言葉、豊かな感性に触れることが出来た大切な時間でした。富士山の四季の写真に囲まれ、「里の秋」の歌声が聞こえてきました。

オリーブの木では、「ただいま〜！」子供たちの元気な声が廊下から聞こえてきます。オリーブの木の皆さんの目は、開放になっている扉の方向にくぎ付け！子供たちもそれぞれ手を振ったり中をのぞいて笑顔を見せてくれたり……。ひとしきり見送ると「今日はバレーボールで体を動かしましょう」とスタッフの誘導で円になり、その後がビックリ。驚くほどの身体能力で、ビーチボールを使ったバレー



でラリーが続きます。スタッフが息を切らしながら、「ちょっと休憩しましょう」と。毎日高齢者の知恵とパワーに驚き、教えられる毎日です。
(鶴田 和子)

野外活動

今年の夏はわいわい地球塾10本、キャンプ2本を実施。延べ220名の子どもたちが参加してくれました。3度目のコロナ禍で感染対策を徹底しての実施でしたが、何とか全プログラム無事終了しました。一番人気は「八景島シーパラダイスに行こう」で、募集開始後2日でいっぱいとなり、移動手段を大型バスに変更しての実施となりました。海なし県に住む山梨っ子にとって、本物のイルカやマンボウに出会えたことは本当に貴重な体験でした。



世の中が自粛傾向になり、子どもたちの体験学習の機会が狭まる中、YMCAでは敢えて強行した形です。それな



りの対策を講じて万一感染者が出た時の備えをしていれば、何も恐れることはない、という信念のもと、これからも野外活動は継続していきます。保護者の皆様からご理解ご協力が得られて、貴重な自然体験活動の機会を作ることができたことに感謝します。(露木 淳司)

本館 2階 本部事務局

新会館になってもうすぐ3年。館内ではいろいろな方の笑顔に出会います。元気に遊んでいる園児さん、散歩中のデイサービスの利用者さん、学童保育の小学生、そしてサポートするスタッフや講師の方々など。事務局では英会話や元気な子供たちの声を耳にします。

普段デスクワークでパソコン相手に眉間にしわを寄せている私は、ここに集う皆さんの笑顔に癒され、力をいただいています。All for one. 沢山の笑顔に感謝です。(深澤 美紀)

生涯学習事業部 『清走中甲府編』 開催

主催：山梨YMCA 企画・運営：株式会社G a b

7月18日、ゴミ拾いと某人気テレビ番組を融合したゲーム感覚ゴミ拾いイベント「清走中甲府編」を実施しました。清走中とは、ゴミ拾いと某人気テレビ番組を融合したゲーム感覚ゴミ拾いイベントで、社会課題解決型ビジネスとして20代の若者によって興された株式会社Gabが運営しています。募集開始後3日間であっという間に定員を超える155名が集まりました。「悪の組織によるゴミのばら撒きに怒った武田信玄公が現代に蘇って甲府に現れる」という山梨ならではのゲーム設定のもと、全員が楽しみながら、合計50キロのゴミを集めることができました。

社会課題解決のためのステークホルダーとして、また、他団体との協働による相乗効果をもたらすプラットフォームとして、YMCAが地域の中で担う役割を確認し、その第一歩を新しいユースと共に歩み出したところです。
(福田 奈里子)



山梨YMCAユースリーダー会発足！

この夏、山梨YMCAのユースが国内外のプログラムに参加しました。ワイズメンズクラブ国際協会主催の国際ユースコンボケーション（IYC 於タイ王国チェンマイ）、学生YMCA夏期ゼミナール（於東山荘）、そして東日本区ワイズメンズクラブ主催のユースボランティアリーダーズフォーラム（YVLF 於東京YMCA山中湖センター）です。YMCAでは18歳以上35歳以下の若者を「ユース」と位置づけ、YMCA運動の担い手として積極的に研修や学びの場を提供しています。今回のプログラムも、多様な背景を持つ若者たちが一堂に会し、地球規模の社会課題に向き合い、YMCAの「人に寄り添い、共に育ちあう場づくり」の働きにどのようにリーダーシップを発揮していけるか、ひざを突き合わせて話し、日頃の活動の情報共有を行なう熱い数日間を過ごしました。プログラムを終えたユース達は一様に「参加してよかった。YMCAの面白さ、奥深さを知った。山梨の活動も盛り上げたい！」との声をあげ、10月11日、これらのリーダーと、すでに4月から活動しているワイズメンズクラブとYMCAのユース育成事業「ユースアクション」に取り組んでいる学生とが一堂に会し、これからYMCAでどんなことをやっていきたいか、ざっくばらんな語り合いの場を設けました。これから、定期的集まりながら、聖書研究や社会問題について学ぶ時間をもったり、YMCAに集う子どもたちに向けて若者企画のプログラム提供などを展開してゆく予定です。ミーティングの最後に一人のリーダーが一言。なんとこの日は、YMCAの創設者、ジョージ・ウィリアムズの誕生日でした！ユース発信の小さな一歩が、178年前の若者たちの祈りに通じる歩みに連なれるよう願っています。（福田 奈里子）



タイ・チェンマイで開かれたIYC集合写真



全国学生YMCA夏期ゼミナールでの分団討議



やまなみワイズ主催のグローバルフェスタにて活動する山梨Yユース



YVLFではビッグカヌーで山中湖に漕ぎ出しました。初対面のリーダー達ともすぐに仲間に。

「ユースでYMCAについて学ぶ会」「‘世界’や‘社会’とつながる」「地域とつながり、Yを知ってもらおう」etc. ユース達の思いを自由に出し合いました。ユースリーダー会にて。



甲府やまなみワイズメンズクラブ 誕生

2022年9月3日(土)、甲府やまなみワイズメンズクラブが新たに誕生しました。YMCAを支える社会奉仕団体のワイズメンズクラブは、これで山梨県内に4つとなります。山梨で最初にできた甲府ワイズメンズクラブの設立70周年記念事業の一環として、この新しいクラブが設立されました。戦後いち早く山梨の青少年活動、ボランティア活動を始めた社会教育団体としてのYMCA運動の歴史は、それを支えてくださる多くのワイズメンの熱き祈りと行動によって継承されてきたことを実感する、感動的なチャーターナイト(設立式)でした。新しい歩みを始めたやまなみワイズメンズクラブは、翌10月には甲府駅北口広場にて「グローバルフェスタ」を開催するなど、地域に根差した国際交流が既に始まっています。YMCAもユースリーダーとともに参加するなど、ユースの活躍の場も与えられました。コロナや戦争といった不安定な世界にあって、そこに蒔かれた小さな種は、やがていつか、平和の実を結ぶことを信じ、やまなみワイズメンズクラブとYMCAの協働の歩みはこれからも続きます。



甲府やまなみワイズメンズクラブ

会員数 11名

活動方針

- 1.甲府駅北口地域の特性を生かした地域奉仕活動
- 2.山梨と世界を結ぶ橋渡しとなる国際交流活動



甲府やまなみワイズメンズクラブ誕生～心豊かに歩みを進めて～

このコロナ禍にある中での新クラブ誕生にご尽力された皆様、それをお支えいただきました親クラブ甲府クラブに対し、山梨YMCA総主事として感謝申し上げます。

山梨YMCAは地域の皆さまおひとりおひとりの命に寄り添い共に生きる、心豊かな地域共生社会の実現を目指しております。創設の喜びと感謝と共に、互いを認め合い、高め合うポジティブネットのある豊かな社会の創造につながるよう、地域のニーズをみつけ、よくなる社会を目指してください。これからのやまなみクラブの活動に豊かな恵みが与えられますようにお祈り申し上げます。

総主事 中田 純子

甲府ワイズメンズクラブ

甲府21ワイズメンズクラブ

富士五湖クラブ 紹介

山梨YMCAを支えてくださっているワイズメンズクラブ。今回の秋号では一部分ではありますが、3団体を紹介したいと思います。 **次回冬号でも3団体を紹介させていただきます。どうぞ期待!**
「1.名称、2.会員数、3.活動拠点、4.活動内容、5.会員募集の一言」で紹介します。

甲府ワイズメンズクラブ

1. 甲府ワイズメンズクラブ
2. 30名
3. 山梨YMCA内
4. チャリティーラン、サマーキャンプ、バザーへの支援
5. YMCAを支援を第一の目的として、地域、国際社会に奉仕する国際的なボランティア団体です。ボランティアに興味のある方は、老若男女を問いません。



甲府21ワイズメンズクラブ

1. 甲府21ワイズメンズクラブ
2. 53名
3. 山梨YMCAグローバルコミュニティーセンター
4. チャリティーラン、バザー、ベビーカーコンサート
5. 幅広い年代の会員が在籍しているクラブです。
一緒に活動しませんか?



富士五湖クラブ

1. 富士五湖クラブ
2. 11名
3. 富士吉田市ふれあいセンター
4. ・富士北麓の障害者を集めてのフライングディスク大会
・日本一高所でのバーベキュー例会
・YMCAチャリティーラン、YMCAバザーの協力
5. 「楽しく活動 自分の世界が広がります」



第62回チャリティーバザー 11月3日（祝・木）

Withコロナで新館にて3回目開催！

新型コロナウイルス流行にも負けることなく、皆様のご協力のおかげで今年も開催いたします！
今年も様々なブースを展開予定です。



びっくり市をはじめ、
野菜や花、工芸品、食べ物
など15以上のコーナーがご
ざいます！
子どもに人気なからつりや
お菓子福袋など子育て世代に
も嬉しいものがいっぱい！



おにぎりアクション



10月16日は、国連が定めた「世界食料デー」です。

山梨YMCAは昨年に引き続き、10月の1か月間を通して「おにぎりアクション」を行います！これは世界の子どもに給食を届けるTABLE FOR TWOの活動の1つです。

世界に広がる飢餓や貧困について考え、自分にできることを模索し、アクションへと繋げていく10月にしたいと考えています。

冬号の報告もお楽しみに。

表紙の写真から



1950～60年代を中心に、ハイスクールYMCA（通称ハイ）というものが存在していました。ハイはその後衰退。当時、参加したメンバーは、今でもワイズメンや賛助会などを通じてYMCAの支援者になってくれています。そしてOBOGの仲間と結成されたミズガキの会には、平均年齢70才を超えた有志が集い、あだ名で呼び合い、若かりし日の面影を見ることが出来ました。来年も違う形で集合しそうな予感。 中田 純子